

生涯学習課 NEWSLETTER



福島県文化スポーツ局 生涯学習課

TEL : 024-521-7404 FAX : 024-521-5677

MAIL : shougaiyakushuu@pref.fukushima.lg.jp

No.14 R5.3.3



ニューズレターの概要

このニューズレターは、平成27年度に開催された「全国生涯学習ネットワークフォーラム」の後継事業として、震災からの復興・再生や地域課題に取り組んでいる県内の関係者等の情報を共有し「学びをささえる、いかす、ひろげる、つなげる」ため、年に2回発行しています。

皆様方からも、多種多様な情報をぜひ当課までお寄せください。日常的な取り組みや様々な企画のもと実施されたイベント等、生涯学習に関する情報ならどんなものでも結構です。

にしあいつ物語講座

「近世山村の暮らしのあれこれ」

耶麻郡に属する西会津町は、会津地方北西部に位置する。教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、住民の教養の向上、健康の増進を図るため公民館本館と4つの分館を設置している。今回、公民館主催の「にしあいつ物語講座」に参加し、講師の長谷沼氏と担当の雅楽川氏から話を伺った。



<講師の長谷沼清吉氏>

地域の歴史は伝えていかなければ残っていかない!

各地域には、大切に守り、語り継がれてきた「宝」がある。「にしあいつ物語講座」では、このような地域の「宝」について学習している。今回は、「近世山村の暮らし」の著者である長谷沼清吉氏を講師に迎え、「近世会津の山村での暮らしぶり」について学習した。参加者は、祖先はどのような暮らしを送っていたのか、

その中から見えてくる暮らしの知恵や歴史を学んだ。猪がいないといわれていた奥会津で猪が出現したことや、松の木が650本枯れてしまったことなど、歴史を学んでいると、自然には数年、数十年、数百年のサイクルがあることが見えてくるという。長谷沼氏は、「地域の歴史は伝えていかなければ残っていかない、それは我々の責任である。」と話す。「山村の暮らしは、大変だと思いかもしれないが、祖先は良く働いて、よく工夫し、住めば都にしてきた。これからの私たちが住む西会津町に関わる歴史を学び、『過去にどのようなことがあって今の姿があるのか』ということを後世に伝えていきたい。」と語った。



写真を提示しながら説明する場面

西会津に興味をもっともらう講座内容の工夫!

西会津公民館では、2018年から毎年「にしあいつ物語講座」を行ってきた。今回は、講義形式であったが、バスで町内を回るフィールド

ワーク形式も実施しており、参加者からとても好評を得ている。担当の雅楽川氏は、若年層の参加者がさらに増えるよう内容を工夫していききたいと語った。



にしあいつ物語講座・フィールドワーク「大山祇神社本社への参道を10倍楽しむ方法」の参加者

【参加者の感想】

○郷土の歴史を知らないもので、詳しく聞けるいい機会だった。大きなくくりの日本史の中で、細かなところを自分たちの地域に合わせて学べるところはとても面白い。(星敬介さん)

福島県生涯学習基本計画から

福島県生涯学習基本計画では、施策2地域づくりにつながる学びの推進、(2)地域への誇りと愛着を育む学びの推進を掲げている。今後地域住民がふるさとの魅力を再発見し、伝統文化の継承等が図られるよう、学びの機会の提供を進めていく。

「會津稽古堂」市民講座

オンライン活用講座

生涯学習総合センター「會津稽古堂」は、會津若松市の中央公民館と會津図書館を含む生涯学習のための複合施設である。會津稽古堂では、子どもから、お年寄りまで幅広い年代の方が参加できる学びの場を提供している。



今回は、市民講座「オンライン活用講座」講師の桜の聖母短期大学教授である三瓶千香子氏から話を伺った。

時間と空間を超えて学べるツールとして！

「オンライン活用講座」は2日間の日程で開催された。1日目は、普段使っているパソコンにZoomをダウンロードしてビデオ通話を行った。2日目は、画像や資料を共有する方法などを学んだ。

講師の三瓶氏は、所属大学の傾聴



持参したPCにインストールしたZoomを使って活用の仕方を学ぶ受講生

ボランティア講座で、いち早くオンラインを取り入れている。傾聴ボランティア講座は、震災後の福島復興と心のケアのために始まった講座であり、年配の方々の参加も多く、対面で行うことが基本の講座であったため、コロナ禍により開催が困難となった。そんな中、三瓶氏はオンラインを活用し講座の存続に成功している。そのため今回の講師を担当することになった。

コロナ禍で普及したオンライン活用のメリットに、参加者の幅が広がったことと経費が節約できたことを挙げている。コロナ禍前に比べ、県内だけでなく県外や外国からの参加希望もあつたそうだ。また、以前はバスで一日かけて県外に勉強会に行っていたが、今はオンラインで短時間に県外の取組を学習できるとい

市民のニーズに合わせた

オンライン活用講座の企画

オンライン活用講座について、會津稽古堂の太田芳氏から話を伺った。オンライン活用講座は、昨年度に続き2回目の実施である。會津稽古堂を利用しての団体が、コロナ禍で来館できなくなったため、コロナ禍でもコミュニケーションをとったり、活動したりできるように企画したそうだ。コロナ禍が落ち着くと対面での講座ができるようになってきた。しかし、技術の進歩に合わせたICTを活用した学びは今後も必要であり、市民がオンラインも活用しながらさらなる学びと交流を広げられるよう支援していきたいと考えている。

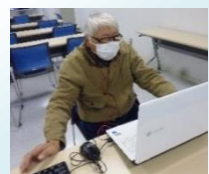
参加者は、他の講座と比べ若い方から高齢者まで幅広い。デジタルが苦手な高齢者が参加しやすいよう少人数制にして、職員がきめ細かく対応できるように工夫している。

学んだことを仕事や趣味

で活用していきたい！

受講者はとても意欲的に学習に取り組んでおり、時間が足りないようだった。参加者からは、「あつという間に時間が過ぎてしまった。繰り返して使用しないと忘れてしまうので、

学んだことを活用して定着させていきたい。」という声も聞かれた。



別室でオンライン通話を体験

【参加者の感想】

○スキルアップして会議の主催者となるため初めて参加した。コロナ禍でグループの活動ができなかったため、オンラインで活動を再開したい。

(渡部とみさん)

○学んだことを会社で活用したい。また、コロナ禍で友達とも集まらなかったため、オンラインを活用して集まった気分を味わい、情報交換も行いたい。

(野村直美さん)

福島県生涯学習基本計画から

令和4年3月に策定した福島県生涯学習基本計画では、施策4社会の変化に対応した学びやすい環境づくりの推進、(1)ICTの活用と学習情報の提供の中で、オンラインを活用した学習の推進を挙げている。今後もリアルとオンラインの双方で、住民が相互に「つながり」をもてる共同学習・交流を促進していくことが生涯にわたる自己実現につながる。